

## 第V章 ボランティア活動の

### 実態と今後の希望

この章では、市民のボランティア活動について検討する。今後の地域における生涯学習の展開と方向を考える上で、ボランティアの問題は重要である。市民のボランティア活動がどのような現状であり、今後の学習ボランティアの方向や、仙台市に対する希望等を明らかにする。

#### 1. ボランティア活動の実態

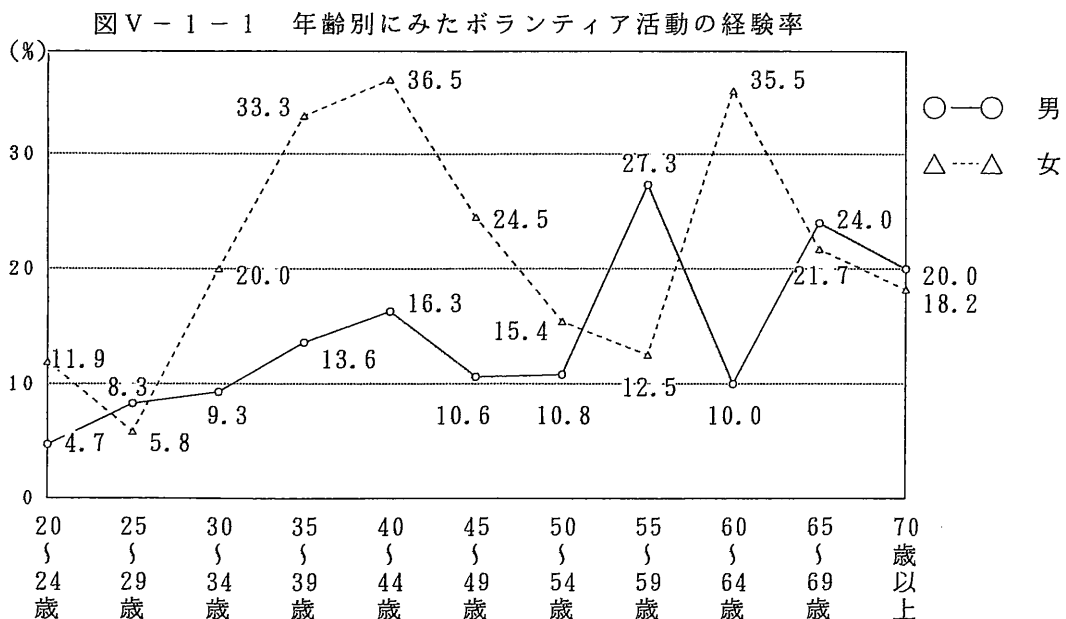
##### (1) ボランティア活動をする市民

この1年間に、ボランティア活動を行ったことがある者は17.1%で、ほぼ6人に1人の割合となる(表V-1-1)。性別では、男性が13.1%、女性が20.6%と、女性の方が多くなっている。

年齢との関係では(図V-1-1)、男性の場合は30代後半以降は、ボランティア活動を行ったことがある者は10%を超えている。女性の場合、20代後半がやや少ないというものの、いずれの年齢層でも10%を下回ることはない。

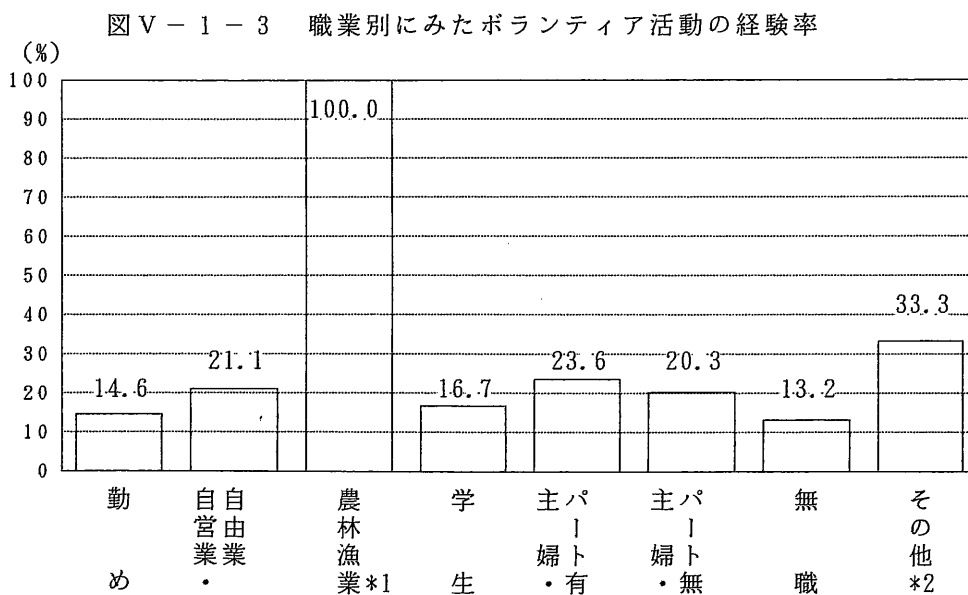
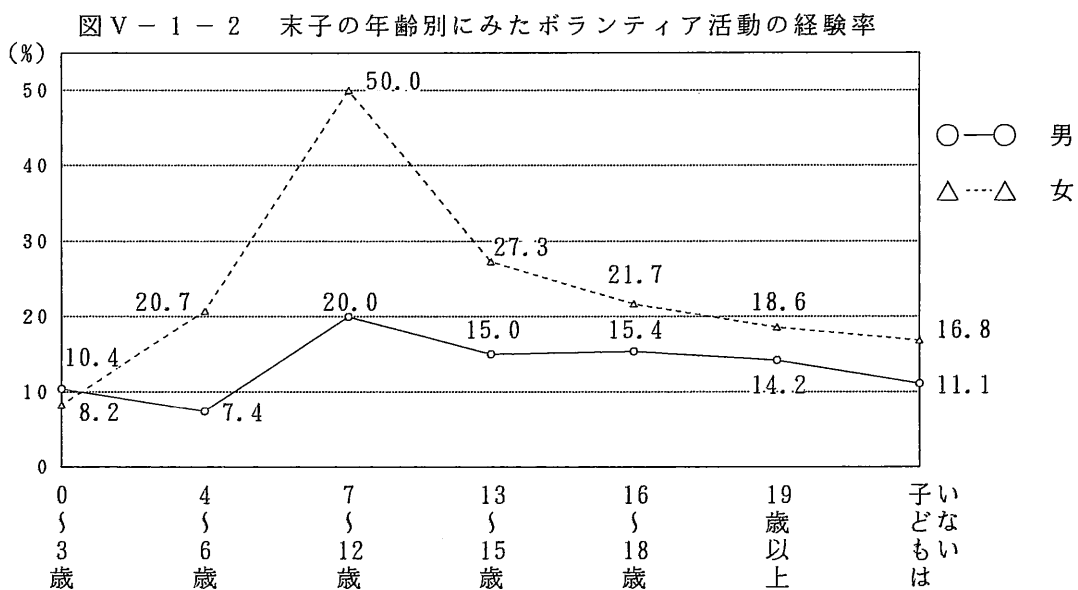
表V-1-1 性別にみたボランティア活動の有無(%)

	あ る	な い	不 明	計
全 体	17.1	79.7	3.2	100.0
男	13.1	85.0	1.9	100.0
女	20.6	75.5	3.9	100.0



また、末子の年齢との関係では（図V-1-2）、男性では、0～3歳、4～6歳の子どもを末子にもつ場合にやや少ないものの、その他の年齢層の子どもをもつ場合には、ボランティア活動を行ったことがある者の比率は、ほぼ15%以上である。女性の場合、0～3歳の末子をもつ場合を除いて、どの年齢層の末子をもつ場合も、比率は高い。特に、小学生の年齢層をもつ場合2人に1人は、ボランティア活動を行ったことがあるということになる。末子が19歳以上になると、男女とも比率は下がる傾向にある。

職業別にみたボランティア活動の経験率は、図V-1-3のようであった。勤め人の場合は、14.6%であるが、自営業・自由業や主婦では20%を超えている。また、主婦でもパートをしている場合の方が、していない者の比率よりも高くなっている。

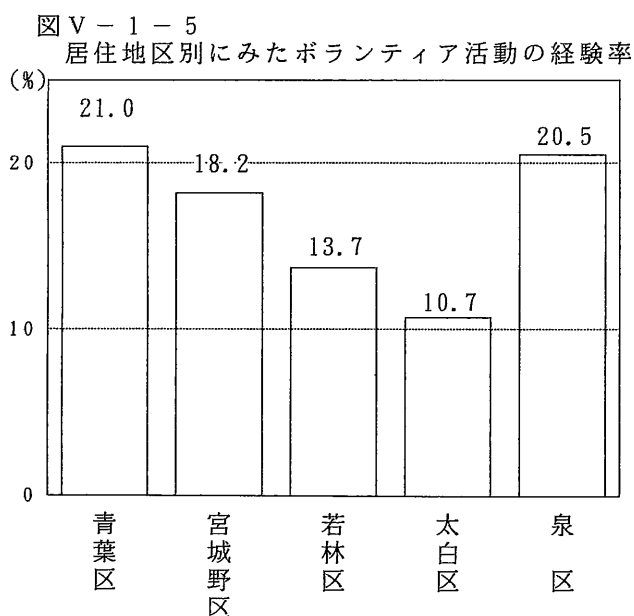
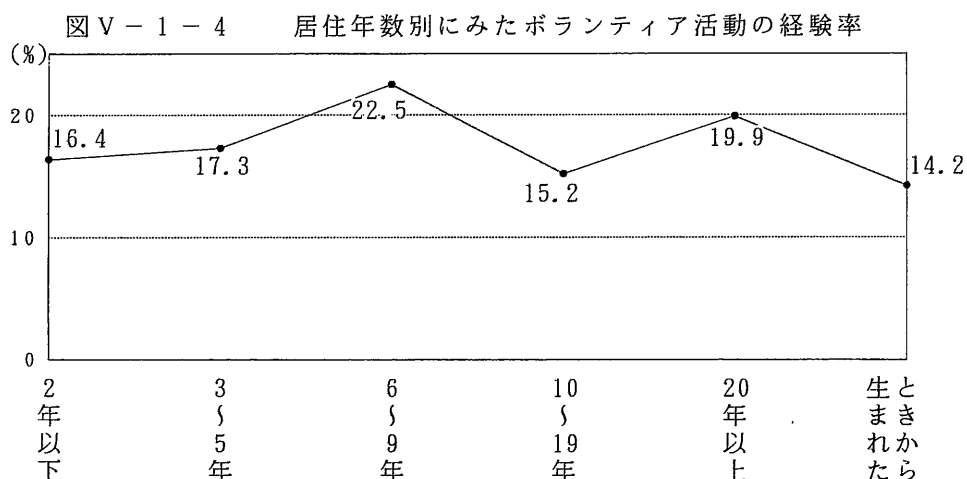


\* 1 実数2に対する比率

\* 2 実数9に対する比率

居住年数別でみたボランティア活動の経験率をみると（図V-1-4）、居住年数10年未満では、年数の増加とともにボランティア活動をしたという比率が少しずつ高くなる傾向がある。

居住地区別でみたボランティア活動の経験率は、図V-1-5のようであった。青葉区では21.0%の者がボランティア活動を行ったことがあるとしているのに対して、太白区ではその半分の10.7%である。



## (2) ボランティア活動の内容

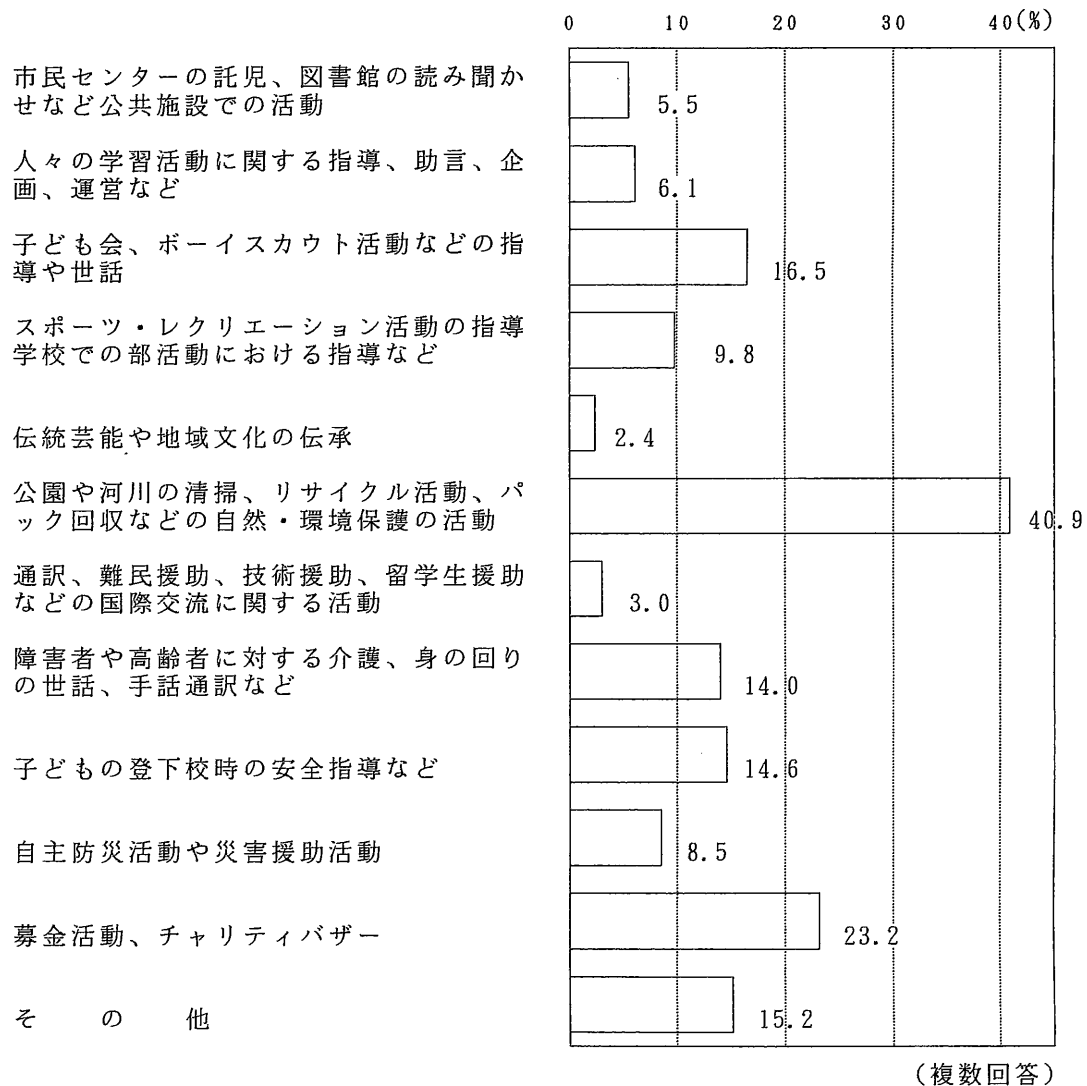
この1年間にボランティア活動を行ったという2割弱の市民は、どのような内容の活動をしたのだろうか（図V-1-6）。

もっとも多いのは、「公園や河川の清掃、リサイクル活動、パック回収などの自然・環境保護の活動」（40.9%）で、次が、「募金活動・チャリティバザー」（23.2%）である。続いて、「子ども会、ボーイスカウト活動などの指導や世話」、「子どもの登下校時

の安全指導など」、「障害者や高齢者に対する介護、身の回りの世話、手話通訳など」が15%前後となっている。

ボランティア活動をしている人に、末子が小学生の場合が多かったことでもわかるように、ボランティア活動の内容は、子どもたちとの関わりが深いと想像される内容となっている。

図 V - 1 - 6 ボランティア活動の内容



## 2. ボランティア活動に対する今後の希望

### (1) ボランティアに対する希望

ボランティア活動を今後してみたいという者は、60.4%である(表 V - 2 - 1)。これは、上でみたように、実際にこの1年間に活動をしたという者の、3.5倍になる。性別では、男性の56.5%、女性の65.9%が、今後ボランティア活動をしたい(続けたい)としている。女性の方が10%ほど高くなっている。

実際にボランティア活動をした者であるかどうかとの関連では（表V-2-2）、過去1年間にボランティア活動をしたという者では、9割近い者がボランティア活動をしたい（続けたい）としているのに対して、していないという者の中では55.9%である。

年齢別にみた場合は（図V-2-1）、男性では、20代前半と40代後半から50代後半の年齢層に、今後ボランティア活動をしたい（続けたい）とする者が多い。女性では、比較的若い世代である40代前半までの者に多い。

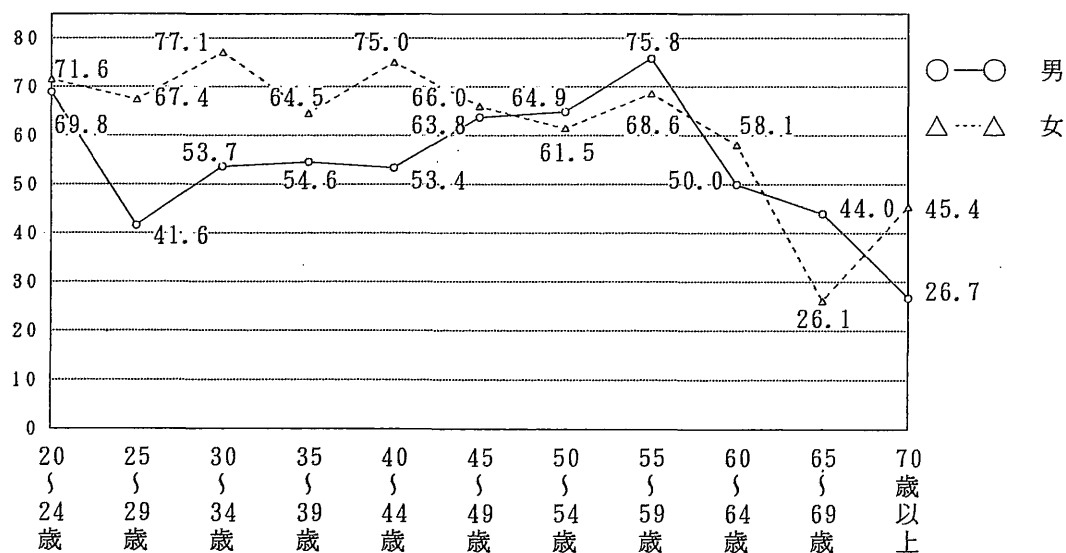
表V-2-1 性別にみたボランティア活動の希望の有無 (%)

	思 う	思わない	わからない	不 明	計
全 体	60.4	10.8	24.7	4.1	100.0
男	56.5	14.1	27.0	2.4	100.0
女	65.9	7.6	22.2	4.3	100.0

表V-2-2 ボランティア活動の経験の有無と希望の有無の関係 (%)

	思 う	思わない	わからない	不 明	計
あ り	89.7	1.8	8.5	0	100.0
な し	55.9	13.2	28.9	2.0	100.0

(%) 図V-2-1 年齢別にみたボランティア活動の希望

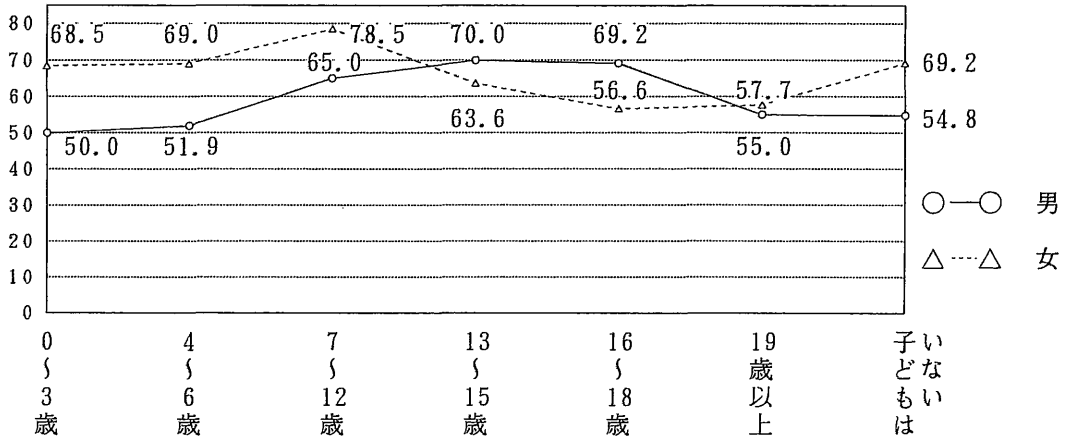


また、末子年齢との関係を見ると（図V-2-2）、男性では、今後ボランティア活動をしたい（続けたい）とする者は、末子が就学年齢に達する段階から比率が高くなる傾向がみられる。女性では、小学校段階に末子がいる年齢層がもっとも高い比率（78.5%）となっている。

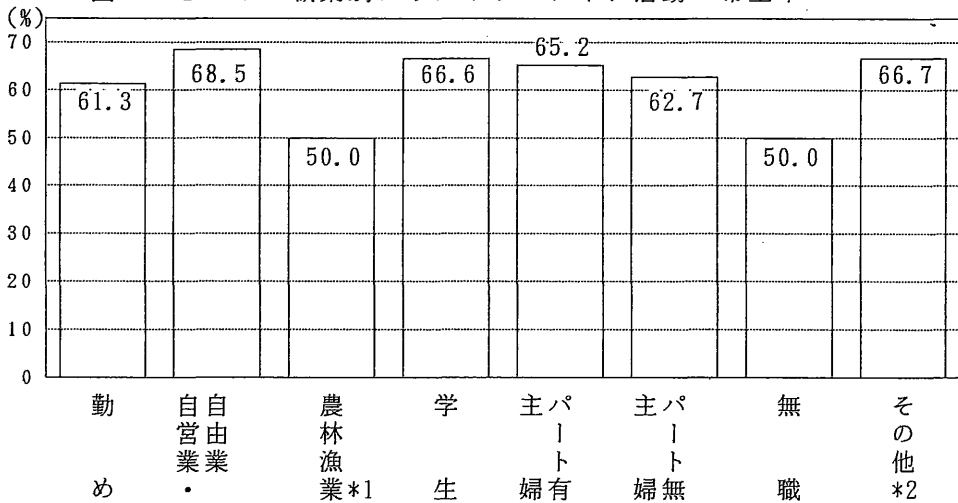
職業別にみて、今後ボランティア活動をしたい（続けたい）とする者は、自営業・自由業の者にもっとも高く68.5%、次が学生で66.6%、パートをもつ主婦が65.2%であった（図V-2-3）。

居住年数別では、10年以下の場合、年数の増加とともに今後ボランティア活動をしたい（続けたい）とする者は63.6%から66.2%へと、わずかではあるが増加する（図V-2-4）。

図V-2-2 末子の年齢別にみたボランティア活動の希望



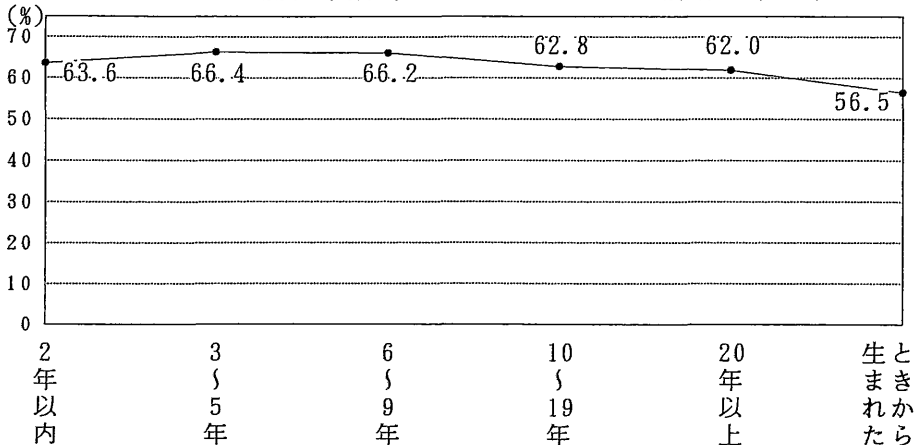
図V-2-3 職業別にみたボランティア活動の希望率



\*1 実数2に対する比率

\*2 実数9に対する比率

図V-2-4 居住年数別にみたボランティア活動の希望率



居住地区別では、今後ボランティア活動をしたい（続けたい）とする者は、もっとも多い泉区で65.3%、もっとも少なくとも太白区で57.8%であった（表V-2-3）。

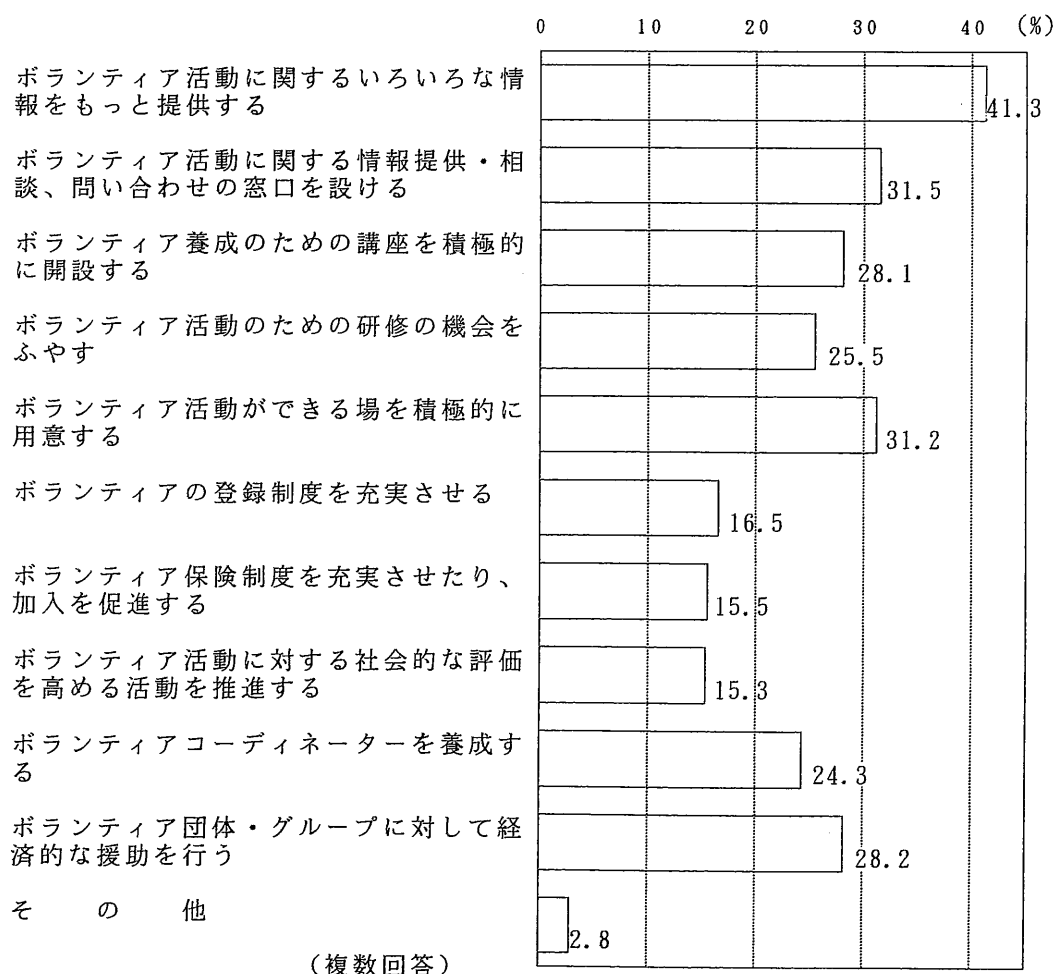
表V-2-3 居住地区別にみたボランティア活動の希望の有無 (%)

	思 う	思わない	わからない	不 明	合 計
青葉区	59.1	13.1	23.4	4.4	100.0
宮城野区	61.7	10.0	21.2	7.1	100.0
若林区	58.9	16.9	22.6	1.6	100.0
太白区	57.8	7.6	30.2	4.4	100.0
泉 区	65.3	8.4	24.2	2.1	100.0

(2) 市への期待

では、そうしたボランティア活動してみたいという市民は、仙台市に対して、どのような要望をもっているのだろうか。ボランティア活動をしやすくするために市に望むことは、図V-2-5のような回答であった。

図V-2-5 ボランティア活動に関する市への期待



もっとも多いのは、「ボランティア活動に関するいろいろな情報をもっと提供する」というもので、今後ボランティア活動をしたい（続けたい）とする者の43.1%が望んでいる。続いて、「ボランティア活動に関する情報提供・相談、問い合わせの窓口を設ける」というのが31.5%、「ボランティア活動ができる場を積極的に用意する」というのが31.2%、「ボランティア団体・グループに対して経済的な援助を行う」（28.2%）、「ボランティア活動のための研修の機会をふやす」（28.2%）などであった。

その他の希望として記入されていたこととしては、「個人がボランティアへ参加するための休暇制度を設けたり、活動に対する理解を深めるよう、企業・法人組織へ働きかけてほしい」、「援助はしても口は出さないということが大切」、「自分の空いている時間に、小さなことでもできる活動があればよい」、「得意な分野での登録制度を設けてはどうか」、「正式なボランティア団体には証明となるバッジがあればよい」などがあげられていた。

### （3）学習ボランティアの可能性

次に、ボランティア活動の中でも、学習や文化活動、スポーツ活動に関わる、「学習ボランティア」に対する今後の見通しについて、みてみることにする。

表V-2-4は、今後やってみたいと思う学習ボランティアの活動について○をつけてもらった結果である。もっとも多いのは、「自然観察や野外活動の手伝いをする」ということで28.1%であった。次に多いのは、「図書館などで、子どもに本を読んであげたり、話をきかせたりする」が23.4%、「地域で行う学習会や研修会の世話をする」が22.4%であった。

表V-2-4 性別にみた学習ボランティアの希望 (%)

	地域で行う学習会や研修会の世話をする	サークル等の指導者となる	図書館などで、子どもに本を読んだり、話を聞かせたりする	自宅を学習活動や文化活動のために提供する	児童センターなどの公共施設で託児をする	学習資料や教材を作成する	伝統芸能や地域文化を伝承する	博物館や科学館などの施設で展示物の説明を行う	自然観察や野外活動の手伝いをする	生徒の学習活動を支援する	子ども会活動や学校外での児童・生徒の活動や学校外での児童・生徒の活動や学校外での児童・生徒の活動	さまざまな情報の収集や提供をする	その他
全体	22.4	18.8	23.4	2.9	16.9	10.2	10.2	6.9	28.1	18.6	18.4	5.5	
男	19.4	25.9	10.8	3.0	4.7	7.3	10.8	7.3	38.8	16.4	25.4	2.2	
女	24.7	14.0	32.4	3.0	25.3	12.5	10.1	6.8	20.8	20.5	13.7	7.7	

（複数回答）



その他の活動内容として具体的に書かれていたものとしては、「なんでもよい（が、どこでできるかわからない）」、「ワープロの資格を持っているがそれを生かしたい」など、であった。やりたいことが多様であり、ボランティアの活動の多様性に対する対応を考えることが必要であろう。

性別で学習ボランティアの希望の違いをみると、男性では、「自然観察や野外活動の手伝いをする」（38.8%）、「自分の得意なスポーツや外国語、合唱などの分野で、グループ・サークル等の指導者となる」（25.9%）、「マルチメディアを利用して、さまざまな情報の収集や提供をする」（25.4%）などが多い。一方、女性では、「図書館などで、子どもに本を読んであげたり、話をきかせたりする」（32.4%）、「市民センターなどの公共施設で託児をする」（25.3%）、「地域で行う学習会や研修会の世話をする」（24.7%）などであった。

また、過去1年間にボランティア活動をしたことがあるかどうかとの関連については、表V-2-5のようであった。「ボランティア活動あり」とする者の場合、希望する学習ボランティア活動内容としては、「地域で行う学習会や研修会の世話をする」（26.5%）、「子ども会活動や学校外での児童・生徒の学習活動を支援する」（25.9%）、「自然観察や野外活動の手伝いをする」（23.1%）、「図書館などで、子どもに本を読んであげたり、話をきかせたりする」（21.8%）などであった。

過去1年間にボランティア活動をしたことがない者の場合、「自然観察や野外活動の手伝いをする」（29.4%）、「図書館などで、子どもに本を読んであげたり、話をきかせたりする」（24.2%）、「地域で行う学習会や研修会の世話をする」（21.0%）「マルチメディアを利用して、さまざまな情報の収集や提供をする」（20.3%）が多い。

表V-2-5 ボランティア活動の経験の有無別にみた学習ボランティアの希望（%）

	地域で行う学習会や研修会の世話を する	自分の得意な分野で、グループ・ サークル等の指導者となる	図書館などで、話を聞かせたりする 子どもに本を読ん	自宅を学習活動や文化活動のため に提供する	児童センターなどの公共施設で託 児をする	学習資料や教材を作成する	伝統芸能や地域文化を伝承する	博物館や科学館などの施設で展示 を行う	自然観察や野外活動の手伝いをする	子ども会活動や学校外での児童・ 生徒の学習活動を支援する	さまざまな情報の収集や提供をする マルチメディアを利用して、さま	そ の 他
あり	26.5	16.3	21.8	4.1	11.6	7.5	10.9	4.8	23.1	25.9	12.9	5.4
なし	21.0	19.8	24.2	2.6	18.9	11.2	10.0	7.5	29.4	16.3	20.3	5.1

（複数回答）